

令和2年度 事業報告書

事業年度 令和2(2020)年4月1日～令和3(2021)年3月31日



学校法人 聖マリア学院

St. Mary's Educational Foundation

Fides 【 信仰 】

Spes 【 希望 】

Caritas 【 愛 】

～ 連綿と受け継がれる「カトリックの愛の精神」 ～

聖マリア学院の歴史の源泉は、大正4年、井手内科医院の開設にはじまります。その院長、井手用蔵は熱心なカトリック信者で、貧しく医療に恵まれない人々を長年に亘り支援してきました。

学校法人聖マリア学院の創設者である、初代理事長の井手一郎は、父・用蔵の志を継ぎ、後の本法人設立母体となる、医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院（現・社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院）を開設し、その基本方針を、カトリックの愛の精神に基づく医療と教育の普及としました。

本学院の教育理念が、カトリックの愛の精神に基づく教育研究の実践である所以であり、その精神は、現在に至るまで連綿として受け継がれています。

信 望 愛



目次 ~Contents~

I. 法人の概要

1. 法人の概要
2. 建学の精神
3. 教育理念
4. 沿革
5. 役員・評議員
6. 設置する学校・学部等
7. 入学定員及び学生数
8. 収容定員充足率
9. 教職員
10. 聖マリアグループ

II. 事業の概要

1. 基本方針
2. 主な教育・研究の概要
3. 令和2年度科学研究費助成事業採択者一覧
4. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況
5. 令和2年度に実施した主な事業内容
6. 令和3年度入試結果（令和2年度実施／令和3年4月入学者）
7. 卒業生の主な進路状況
8. 国家試験の合格状況
9. 学年暦

III. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い
2. 「資金収支計算書」の概要
3. 「事業活動収支計算書」の概要
4. 「貸借対照表」の概要
5. 有価証券・特定金銭信託の時価情報
6. 主な施設設備の整備状況
7. 主な事業計画履行状況
8. 大科目の経過年度比較表
9. 主な財務比率の経過年度比較表
10. 令和2年度決算総評

I. 法人の概要

1. 法人の概要

| | |
|-------|---|
| 法人名 | 学校法人聖マリア学院 (St. Mary's Educational Foundation) |
| 代表者 | 理事長 井手 三郎 |
| 所在地 | 〒830-8558 福岡県久留米市津福本町4-2-2番地 |
| 電話番号 | 0942(35)7271 |
| FAX番号 | 0942(34)9125 |
| URL | http://www.st-mary.ac.jp/ |
| 設立年月日 | 昭和57(1982)年11月5日 |

2. 建学の精神

カトリックの愛の精神

主イエス キリストの限りなき愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩むことです

3. 教育理念

聖マリア学院大学は「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

4. 沿革

| | |
|----------------|---|
| 昭和 27 (1952) 年 | 医療法人雪ノ聖母会 設立 (後の学校法人聖マリア学院設立における母体となる法人) (平成 21 年より「社会医療法人雪の聖母会」に法人格変更) |
| 昭和 28 (1953) 年 | 医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院 開設 |
| 昭和 48 (1973) 年 | 医療法人雪ノ聖母会 聖マリア高等看護学院第 2 科看護専門課程 設置 (後に聖マリア看護専門学校へと改組) |
| 昭和 51 (1976) 年 | 医療法人雪ノ聖母会 聖マリア高等看護学院第 1 科看護専門課程 設置 (後に聖マリア看護専門学校へと改組) 聖マリア高等看護学院を聖マリア看護専門学校と改称 |
| 昭和 57 (1982) 年 | 学校法人聖マリア学院 設立 (聖マリア看護専門学校の設置者を医療法人雪ノ聖母会から移譲) |
| 昭和 59 (1984) 年 | 聖マリア看護専門学校に保健学科、助産学科 設置 (後に聖マリア学院短期大学へと改組) |
| 昭和 61 (1986) 年 | 聖マリア学院短期大学 看護学科 開学 (後に聖マリア学院大学へと改組) |
| 平成元 (1989) 年 | 聖マリア学院短期大学に専攻科(地域看護学専攻・ 助産学専攻) 設置 |
| 平成 2 (1990) 年 | 同上地域看護学専攻に国際看護コース 開設 |
| 平成 7 (1995) 年 | 聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 開校 |
| 平成 18 (2006) 年 | 聖マリア学院大学 看護学部 開学 |
| 平成 21 (2009) 年 | 聖マリア学院短期大学(看護学科・専攻科) 閉学 聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 閉校 |
| 平成 22 (2010) 年 | 聖マリア学院大学大学院看護学研究科 開設 |
| 平成 25 (2013) 年 | 聖マリア学院大学に専攻科(助産学専攻) 設置 |

5. 役員・評議員

令和3年3月31日現在

■理事／定員：6～8名 現員：6名 任期：3年

| 区分 | 氏名 | 就任 年月日 | 業務執行・ 非業務執行 の別 | 主な現職等 |
|---------|------------|-----------|----------------------|---------------------------|
| 理事長 | 井手 三郎 | H16. 8. 5 | — | 聖マリア学院大学学長 |
| 理事（常勤） | 井手 三郎 | H16. 8. 5 | 業務執行 | 聖マリア学院大学学長 |
| 理事（常勤） | 石井 和弘 | R2. 4. 1 | 業務執行 | 聖マリア学院大学事務部長 |
| 理事（常勤） | 井手 信 | H7. 4. 1 | 業務執行 | 聖マリア学院大学教授 |
| 理事（非常勤） | ドーボン・マゲリーテ | H27. 4. 1 | 非業務執行 | カトリック・カッサ修道女会 大牟田修道院長 |
| 理事（非常勤） | 牧山 強美 | H27. 6. 1 | 非業務執行 | 日本カトリック神学院 院長 |
| 理事（常勤） | 戸塚 幹栄 | H30. 4. 1 | 業務執行 | 学校法人聖マリア学院 法人本部系属校担当主幹 |

■監事／定員：2名又は3名 現員：2名 任期：3年

| 区分 | 氏名 | 就任 年月日 | 業務執行・ 非業務執行 の別 | 主な現職等 |
|---------|--------|-------------|----------------------|---------------|
| 監事（非常勤） | 山田 隆 | H21. 2. 1 | 非業務執行 | 学校法人山内学園法人本部長 |
| 監事（非常勤） | 永松 雄一郎 | H21. 11. 21 | 非業務執行 | 永松税理士事務所 所長 |

■責任免除・責任限定契約の状況

本学院では、以下のとおり責任限定契約を締結しています。

対象者：非業務執行理事ならびに監事

契約内容：上記対象者が任務を怠ったことによって生じた損害について、善意でかつ重大な過失がないときは、次のいずれか高い額を限度として賠償責任を負う。

①金60万円

②職務執行の対価として受ける財産上の利益1年分相当額×2

■補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

本学院では、以下のとおり役員賠償責任保険に加入しています。

対象者 : 役員全員

加入商品 : 日本私立大学協会「私大協役員賠償責任保険制度」
(D&Oマネジメントパッケージ)

主な補償対象: 対人・対物事項以外の学校事故
不正アクセスによる情報漏えい
経営判断ミス等

■評議員／定員：13～17名 現員：14名 任期：3年

| 氏名 | 就任年月日 | 主な現職等 |
|------------|------------|-----------------------|
| 井手 三郎 | S57. 11. 1 | 聖マリア学院大学学長 |
| 石井 和弘 | R2. 4. 1 | 聖マリア学院大学事務部長 |
| 眞崎 直子 | R2. 4. 1 | 聖マリア学院大学大学院看護学研究科長 |
| 井手 悠一郎 | H28. 4. 1 | 聖マリア学院大学准教授 |
| 蓑田 ヒロミ | R2. 1. 1 | 聖マリア病院看護部管理師長 |
| 日高 艶子 | H20. 4. 1 | 聖マリア学院大学看護学部長 |
| 井手 健一郎 | H20. 3. 8 | 聖マリア病院企画部診療統括部門5事務長 |
| 橋口 ちどり | H26. 4. 1 | 聖マリア病院看護部副部長 |
| 神代 明美 | R2. 4. 1 | 聖マリア病院看護部長 |
| 島 弘志 | H21. 6. 1 | 聖マリア病院 病院長 |
| 井手 信 | H27. 4. 1 | 聖マリア学院大学教授 |
| 下川 雅文 | R2. 4. 1 | 社会福祉法人平和の聖母 法人事務局長 |
| 矢野 正子 | R3. 1. 1 | 聖マリア学院大学名誉学長 |
| ド・ボン・マケリーテ | H27. 4. 1 | カトリック・カッサ修道女会 大牟田修道院長 |

6. 設置する学校・学部等

■聖マリア学院大学 看護学部／専攻科 助産学専攻
(St. Mary's College)

■聖マリア学院大学大学院 看護学研究科
(The Graduate School of St. Mary's College)

所在地：福岡県久留米市津福本町422番地

7. 入学定員及び学生数

令和2年5月1日現在

○聖マリア学院大学

| 学部・学科 | 年次 | 入学定員 (収容定員) | 編入定員 (収容定員) | 入学者数 | 在籍者数 |
|----------------|----|----------------|----------------|------|------|
| 看護学部 (4年課程) | 1 | 110 | *** | 110 | 111 |
| | 2 | (110) | *** | *** | 114 |
| | 3 | (100) | *** | *** | 112 |
| | 4 | (100) | *** | *** | 100 |

| | | | | |
|----|------|-----|------|-----|
| 合計 | 収容定員 | 420 | 在籍者数 | 437 |
|----|------|-----|------|-----|

○聖マリア学院大学専攻科

| 学部・学科 | 年次 | 入学定員 (収容定員) | 編入定員 (収容定員) | 入学者数 | 在籍者数 |
|-----------------|----|----------------|----------------|------|------|
| 助産学専攻 (1年課程) | 1 | 15 | *** | 14 | 14 |

| | | | | |
|----|------|----|------|----|
| 合計 | 収容定員 | 15 | 在籍者数 | 14 |
|----|------|----|------|----|

○聖マリア学院大学大学院

| 研究科 | 年次 | 入学定員 (収容定員) | 編入定員 (収容定員) | 入学者数 | 在籍者数 |
|------------------|----|----------------|----------------|------|------|
| 看護学研究科 (2年課程) | 1 | 12 | *** | 6 | 6 |
| | 2 | (12) | *** | *** | 7 |

| | | | | |
|----|------|----|------|----|
| 合計 | 収容定員 | 24 | 在籍者数 | 13 |
|----|------|----|------|----|

| | | |
|--------|-------|-----|
| 在籍者数合計 | ----- | 464 |
|--------|-------|-----|

8. 収容定員充足率

毎年度5月1日現在／直近5ヶ年分

| | 聖マリア学院大学 | | |
|--------|----------|-----------|----------|
| | 看護学部 | 大学院看護学研究科 | 専攻科助産学専攻 |
| 平成28年度 | 1. 14 | 1. 17 | 0. 87 |
| 平成29年度 | 1. 12 | 1. 00 | 0. 67 |
| 平成30年度 | 1. 12 | 0. 83 | 0. 87 |
| 令和元年度 | 1. 08 | 0. 79 | 1. 00 |
| 令和2年度 | 1. 04 | 0. 54 | 0. 93 |

9. 教職員

令和2年5月1日現在

■教員／平均年齢・・・49.8歳

| | 聖マリア学院大学 看護学部 | 聖マリア学院大学大学院 看護学研究科 |
|------|--------------------|-----------------------|
| 教授 | 11 | 11（併任） |
| 准教授 | 7 | 7（併任） |
| 講師 | 5 | 5（併任） |
| 助教 | 9 | 0 |
| 助手 | 6 | 0 |
| 合計 | 38 | 23（併任） |
| 兼務教員 | 129（学部・研究科・専攻科の合計） | |

■職員／平均年齢・・・44.8歳

| | 法人本部 事務局 | 聖マリア学院大学 看護学部 |
|------|-------------|------------------|
| 職員 | 2 | 16 |
| 合計 | 2 | 16 |
| 兼務職員 | 0 | 0 |

※上記の他、法人本部事務局長が聖マリア学院大学より兼務

10. 聖マリアグループ

○社会医療法人雪の聖母会

聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター

昭和28年の開設以来、「カトリックの愛の精神」に基づいた保健医療活動を行っており、聖マリアグループの中核を成す法人です。

救命救急センターを中心として、地域に根ざした医療を目指す総合病院として、41診療科、1,097床の聖マリア病院と、回復期リハビリ病棟・療養型病棟、人間ドッグ・内視鏡センター、透析センターの3部門（5診療科）から構成される198床の聖マリアヘルスケアセンターを運営しています。

○社会福祉法人平和の聖母

高齢者の尊厳を守り快適で心安らぐ毎日を提供する「ケアハウスメゾンマリア」「デイサービスセンターメゾンマリア」「メゾンマリアケアサポート」「メゾンマリアホームヘルプサービス」、認知症になった方の共同生活と終末期ケアを実践する施設「グループホームメゾンマリア」、障がいがあっても現存能力を生かした勤労、ボランティアなどを通じ、社会に貢献し、一人一人が全力で生きる人生を支援する障がい者支援施設「ウェルフェアマリア」などの運営を行っています。

○特定非営利活動法人 ISAPH (アイサップ)

聖マリア病院の長年にわたる国際協力活動から生まれたNPO法人です。

それまで聖マリア病院で実施してきた国際協力活動の手法を活かし、新たな活動を展開しております。ラオス（東南アジア）やマラウィ（アフリカ）を中心に、地域保健活動、災害救急医療支援、保健人材育成支援などを行っています。

○学校法人ありあけ国際学園

保健・医療・福祉分野の経営を担う人材を育成することを目的とした「保健医療経営大学」を運営しております。幅広く活躍できる能力が修得できる充実したカリキュラムや、10万㎡（3万坪）という広大な地にゆとりある空間がちりばめられたキャンパスも魅力のひとつです。

○雪の聖母会健康保険組合

聖マリアグループ各法人（一部を除く）に勤務する職員が加入する、健康保険組合です。2,652名（令和2年3月末時点）の加入者を有し、職員同士の相互扶助を目的に、病気やけがをしたときの生活保障となる「保険給付」、日頃の健康増進を目的とした「保健事業」を展開しています。

II. 事業の概要

1. 基本方針

大学をはじめとする高等教育機関を取り巻く状況は、主として学齢人口の減少に伴う競争的環境下に置かれ、各機関は教育・研究組織としての経営方針・戦略を明確化し、内外に示していくことが求められております。

教育・研究と、経営・管理の両軸が相互に有機的に機能し、中長期的視野に立ったより実践的な目標の明示と、それを実現する組織的行動、また、効果的な点検・評価体制の確立が必須となっているものです。

このことは、今後、ますます多様化することが予想される学生のニーズに的確に対応するため、各大学等に期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究の推進を図るとともに、社会との連携を推進しながら、個々の機関が、その個性・特色を一層明確にしていかなければならないことを意味しています。

本学院におきましては、設立理念「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究の実践を堅持、継承し、“student focused education（学生に焦点を当てた教育の実践）”、さらには“enrollment management（入学前～在学中～卒業後の一貫した総合学生支援策等）”を主眼として、中長期事業計画（理事会・評議員会決議）を踏まえた各種事業に取り組んで参りました。

2. 主な教育・研究の概要

- 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

※次頁以降を参照

1) 看護学部

i) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

キリスト教的人間観に基づく、生命の価値、人間の尊厳について理解し、看護専門職を目指す者として、常に倫理的姿勢を持ち、人々に関心を寄せるケアリングの実践者としての態度を身につけているとともに、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を具備していることを求め、以下のとおりディプロマポリシーを定めます。

－知識・理解－

1. キリスト教的人間観に基づく、生命の価値、人間の尊厳について理解している。
2. 豊かな人間性の基礎となる教養を身につけている。
3. 看護実践に必要な基本的かつ専門的知識を身につけている。

－思考・判断－

4. 論理的、科学的思考に基づいて看護実践の場における諸問題を発見することができる。
5. 看護実践の場における問題を解決するための実践的な判断力を身につけている。

－技能－

<汎用的技能>

6. 国際化する現代社会において必要とされる基本的な語学力・コミュニケーションスキルを身につけている。
7. 情報化する現代社会において必要とされるICTを用いて多様な情報を適切に収集・分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。

<専門的技能>

8. 看護実践に必要な基本的技術を身につけている。
9. 科学的根拠に基づいた看護を提供できる。
10. 看護専門職を目指すものとして、常に倫理的姿勢を持ち、人々に関心を寄せるケアリングを実践できる。

－関心・意欲・態度－

11. 多様な価値を持つ人々を尊重しようとする姿勢を身につけている。
12. 保健医療福祉にかかわる多職種と協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮する能力を身につけている。
13. 地域社会や国際社会の発展を追究し、主体的に貢献する姿勢を身に着けている。
14. 看護学の発展に寄与することを望み、生涯に亘り主体的に探求する姿勢を身につけている。

ii) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現を図るため、以下のとおり教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めます。

一編成方法・教育内容一

1. 看護学を体系的に学ぶために、教育課程を「基礎」「実践」「発展」の3分野で編成します。
2. 基礎分野では、看護専門職者として人を支援する上で必要な、「生命を尊重できる豊かな人間性・倫理観」、「科学的思考と問題解決能力」、「グローバル思考」の基礎を身につける教養科目及び「看護の基本的知識」に関する科目を配置します。

3. 実践分野では、基礎分野での学びを基に、看護実践の場において、様々なライフサイクルにある人と家族に看護を提供するために必要な看護実践能力を身につける科目を配置します。

看護実践は、ケアリングを基本概念とする理論である「ロイ適応看護モデル」を基盤とします。合わせて、それぞれのライフサイクルと健康の段階に適した理論を用い教育します。

4. 発展分野では、基礎分野・実践分野での学びを基に、保健・医療・福祉の質の向上を目指し、時代と地域のニーズに合わせて、看護専門職者が担うべき責務と役割を開拓できる素地を養います。

また多様な価値をもつ人々を理解しようとするグローバルな視点を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を養う科目を配置します。

5. 各学年に建学の精神「カトリックの愛の精神」に関する科目を配置し、学修到達度に応じた建学の精神の考察ができる教育課程を編成します。
6. 更に学びを深めることを希望する学生には、保健師コース、国際看護コース、グローバルスタディーズコースを設定します。

一教育方法と評価方法一

7. 大学における学修への円滑な移行を促すため初年次教育に関する科目を配置し、主体的学修への転換を図り、自ら探究する姿勢を育成します。
8. 建学の精神である「カトリックの愛の精神」に基づく基礎教育・看護知識と実践を融合した教育を行うことで、人々に関心を寄せるケアリングの実践者としての姿勢を育成します。
9. 各科目のシラバス（授業計画）に時間外学修の内容を明記し、十分な学修時間の確保を促します。
10. 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバス（授業計画）に明記し、「知識・理解」、「思考・判断力」、「技能」、「関心・意欲・態度」など様々な視点から学修成果の評価を行います。

iii) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、意欲、適性を具えた学生を求めています。

—知識・技能—

1. 高等学校の教育課程を幅広く履修し、基礎的な学力を修得している。
2. 看護職として活躍していくためのコミュニケーション能力を身に付ける素地がある。

—思考力、判断力、表現力—

3. 他者に関心を持ち、多様な価値観を持つ人を尊重することができる。
4. 自己の考えを適切に表現し、他者に伝えることができる。

—協働・態度—

5. 将来、保健・医療・福祉の場で活躍を希望し、主体的に探究していく姿勢を有している。
6. 他者と協調し、問題解決に向けて努力する姿勢を有している。
7. 地域社会、国際社会に関心を持ち、貢献しようとする姿勢を有している。

上記に基づいた、入学者選抜の評価方法については、大学ホームページに掲載しています。

2) 専攻科助産学専攻

i) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

聖マリア学院大学専攻科助産学専攻は、建学の精神であるカトリックの愛の精神に基づき、生命を尊び、生命に対する倫理観を育てる教育理念を根幹に置き、高度な知識と質の高い助産技術に基づいた実践能力を身につけ、ケアリングマインドを持ち、人間性を重視した支援が行えるとともに、社会における助産師の責務と役割を認識し、生涯にわたって自己研鑽することができる学生を育てることを目指している。

1. 生命を尊重し、看護専門職としての倫理観を育み、ケアリングが実践できる。
2. 対象のもてる力・自然性を尊重したケアが実践できる。
3. 女性のライフステージに応じて、社会・環境にある健康問題を捉えることが

できる。

4. 根拠に基づく思考・実践 (evidence based practice) ができる。
5. 助産師としての主体性を育み、専門職として自律できる。
6. 異なる文化・多様な社会を理解し、国際貢献できる。

ii) カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施に関する方針)

1. カトリックの愛の精神に基づく心豊かな人間性、柔軟な感性、幅広い教養を養うことを目的とした「専門基礎分野」、カトリックの使命であるグローバルな国際社会への貢献として母子の健康上の問題に対応できる能力を養う「助産実践領域」、助産領域の課題に対し、探求的に取り組む姿勢を養う「発展応用領域」の科目から構成される。
2. 助産師としての専門性に偏ることなく、人間理解、人間社会の変化に積極的に対応し得る専門的な知識や社会のニーズに沿った専門スキルを身につける。
3. 少人数の講義、演習を通して、専門職としてのコミュニケーション力、カウンセリングマインドを養うとともに、想像力、批判力など問題解決能力を培い、広い視野に立って母子保健を取り巻く課題の解決に貢献する能力を養う。

iii) アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

聖マリア学院大学専攻科助産学専攻が求める学生像

1. あらゆる人々に対し、愛と奉仕の精神を持って真摯に向き合う事のできる学生。
2. 信・望・愛の精神に則り、「信じる」「希望する」「愛する」ことを中心におき、人間理解に専心することのできる学生。
3. 建学の精神のもと、女性の健康、特に周産期にある母子に対し、高度な専門的知識と温かいみまもりの心を持って支援できる専門職になることに努力する学生。

3) 看護学研究科

i) ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現することを意図して編成されたカリキュラムの内容について、修了までに以下にあげる到達目標に達するとともに、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、本学の行う修士論文の審査および最終試験に合格した学生に修士(看護学)の学位を授与する。

- 1) 「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアについて探求する姿勢を身につけることができる。
- 2) 人間の生命と派生する諸問題に関心を持ち、人間の尊厳を尊重した社会のあり方、倫理の本質について研究の視点で捉え、知識を深め、実践することができる。
- 3) 看護の知識と研究する態度に基づいた医療・保健・福祉現場での看護実践を追求することができる。
- 4) 知識の探求力、他職種との協働力、現場環境への対応力を身につけ、現場の質向上に貢献できる高度実践看護師をめざすことができる。
- 5) ロイ看護モデルを含めた看護理論の開発・発展の過程を学び、看護実践への理論の活用について探求することができる。
- 6) 看護理論を看護実践において活用し、理論の有益性を検討・検証できる力を身につけることができる。
- 7) 看護の知識を実践・教育・研究のそれぞれにおいて、国際性・学際性をもって吟味し探求することができる。
- 8) 高度専門職業人として、看護の実践、教育、研究の分野で国際的、学際的な探求を行い、看護学の知識基盤の検証と発展に寄与することができる。

ii) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するために、次のことを意図し、カリキュラムを編成する。

一編成方針・教育内容一

- 1) 生命・医療倫理の原則に基づき職務を遂行できる高度専門職業人の養成
一生命倫理の教育を理念として根底に置く。
 - (1) 生命・医療倫理の教育には、基盤教育科目に「生命倫理」「看護倫理」を配し、大学院での高度専門職業人育成の根幹の一つとして医療倫理原理の修得を位置づけ、「看護学研究法」の科目では、医療倫理の研究を通して具体的に検討できるようにしている。
 - (2) 専門教育（専門領域）として、健康・療養支援看護学領域、MCH(周産期・母子)看護学領域、統合看護学領域の3領域を設定し、それぞれの領域の基礎を説明する科目として、各領域に「特論」科目を配置、これらの科目は、専門教育においても一貫して生命・医療倫理の原則を引き継いだ構成となっている。
- 2) 保健・医療・福祉現場の看護の質向上に直接的に寄与できる高度専門職業人の養成
一医療等現場の質向上に寄与できる実践力を重視する。

- (1) 高度専門職業人の養成には、教育・研究者をめざす修士論文コースと高度看護実践者をめざす専門看護師コースがある。共通の基盤となる科目には、「看護理論」「看護管理論」「看護政策論」「看護教育論」などがあり、専門看護師コースの基盤科目としてはさらに「臨床病態生理学」「臨床薬理学」「ライフスパンフィジカルアセスメント」を配している。
 - (2) 修士論文コースでは、健康・療養支援看護学領域に、ヘルスプロモーション看護学、小児・子育て支援看護学、クリティカルケア看護学、療養支援慢性看護学、老年看護学、精神看護学の6分野を設定し、またMCH(周産期・母子)看護学領域に、MCH(周産期・母子)看護学の1分野を、更に、統合看護学領域に、看護政策・管理・教育システム(国際比較)、国際看護学の2分野を設定する。それぞれの分野において、健康・療養支援(健康・療養支援看護学領域)、女性の生涯にわたる健康、周産期における母子とその家族の健康とその逸脱を含むプロダクティブヘルス(MCH看護学領域)、医療供給制度、効果的なリーダー・管理者、看護による国際協力(統合看護学領域)について探求する科目を配置し、未対応の課題や実践上の問題などを「特別研究」のなかで研究に起こし、修士論文においてその研究のプロセスと結論を表現することができるカリキュラムを編成する。
 - (3) 専門看護師コースには、健康・療養支援看護学領域に慢性専門看護師コース、MCH(周産期・母子)看護学領域に母性専門看護師コースを設定する。慢性専門看護師コースでは、長期療養を特徴とする慢性期疾患患者のケアに必要な支援技術と医療・地域連携に関する理論を学ぶ科目、専門看護師支援技術と連携医療を演習する科目、医療的措置・薬物療法への対処技術を修得する科目、更に、専門看護師技術や連携医療、薬物療法他治療的介入の実際を学ぶフィールド科目を配置し、母性専門看護師コースでは、周産期における母子と家族についての理論を学ぶ科目、周産期医療におけるエビデンス獲得やアセスメントに基づく看護ケアを探求する演習科目、更にそれらの基礎知識を実践に応用しながら高度看護実践を探求する科目、また、専門看護師機能や質保証に資する高度な看護ケア実践力を深めるためのフィールド科目を配置するなど、各専門看護師コースにおいて、講義、演習、実習の重層的構造により、知識と実践の効果的連結を意図したカリキュラムを編成する。
- 3) 看護の実践・教育・研究を通して、わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開に寄与する高度専門職業人の養成
- 一わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開を図る。
- (1) 看護知識やケア技術の検証によるエビデンスの集積に寄与できる能力を獲得するための科目として、ロイ看護モデルを含む看護の理論を学ぶ科目「看護理論」と「EBNP 特論」「調査研究処理法」を有し、知識と実践スキル

における課題と看護の役割について教育的に探求する科目「看護教育論」を配置する。

4) 国際的視野のもとに看護の実践・教育・研究を学際的に遂行できる高度専門職業人の養成

一国際性・学際性を重視した教育を行う。

(1) 国際的視野に立った教育としては、「看護理論」は米国看護理論分析家による授業を配し、「異文化理解と国際医療協力論」では国際医療協力の交渉や実務の豊富な経験を有する者による授業を配し、国際医療協力を国際的・学際的に探求することができる科目を配置する。

(2) 統合看護学領域（国際看護学分野）では「国際看護学フィールドスタディ」を配しており、国際看護学を実地での修学を通して深めることができ、実地フィールドで見いだした課題を研究として修士論文完成のプロセスにおいて探求する。

一教育方法・評価方法一

(1) 実践や理論から導かれる自らの研究疑問に対して、調査研究によって探求する姿勢を育成する。

(2) 各科目のシラバスに時間外学修の内容を明記し、十分な学修・研究時間の確保を促す。

(3) 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバスに明記し、さまざまな視点から学修成果を評価する。

(4) 学位論文審査に係る評価基準を定め、定められた審査基準、評価体制、方法により評価する。

iii) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学の教育理念に基づき看護学・看護実践に対する正しい基本姿勢をふまえて、看護の分野における高度かつ専門的な学術の理論および実践を研究し、高度実践看護の実践者、指導者、教育者、研究者、管理者等となるべき人材、また、国際的視野のもとに看護の教育・研究・実践を学際的に遂行できる優秀な人材の開発・育成を目標としています。入学者選抜においては、以下にあげるような学生を求めています。

1. 豊かな人間性と、人間の尊厳を基盤に置く高い倫理観を求める者
2. 本学看護学研究科の教育を受けるための基礎学力を有する者
3. 看護学に対する強い興味と探究心を持ち、自立性および向学の志が高い者
4. 修士課程を修了し、その研究成果の応用によって看護の分野における地域社会および国際社会の幸福と健康に寄与する意思を有する者。

3. 令和2年度科学研究費助成事業採択者一覧

■ 研究代表者

| | 研究種目 | 研究課題名 | 代表者名 |
|----|------------|--|-------|
| 新規 | 基盤研究C | 自然災害を体験した炎症性腸疾患患者の支援モデルの開発 | 谷口あけみ |
| | 基盤研究C | 高齢者の介護購買力が家族介護者の仕事と生活に与える影響 | 本田歩美 |
| | 若手研究 | 終末期がん患者が穏やかさを見出すための 看護援助モデルの構築 | 松野史 |
| 継続 | 基盤研究C | 看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための 段階的教育プログラムの開発 | 石本祥子 |
| | 基盤研究C | ウガンダ難民定住地における女性を対象とした暴力の実態調査 | 秦野環 |
| | 基盤研究C | 若年女性の妊孕性に関する意思決定支援に向けた 看護基礎教育プログラムの開発 | 桃井雅子 |
| | 基盤研究C | 自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが 中堅前期看護師の看護実践力に及ぼす影響 | 鶴田明美 |
| | 基盤研究C | 自発性を賦活させる熟練看護師の看護実践を支える 暗黙知の解明 | 小浜さつき |
| | 基盤研究C | 都市型準限界集落のソーシャルキャピタル コーディネーター育成プログラム開発と評価 | 眞崎直子 |
| | 若手研究B | 介護老人福祉施設におけるPDアプローチによる 感染対策効果の検討 | 渋谷暁春 |
| | 若手研究 | 多様性をいかす病棟師長のタイバーシティ・マネジメント | 近末清美 |
| | 研究活動スタート支援 | 男性不妊当事者の求める心理的支援の実態 -心理的支援体制の構築を目指して- | 井口亜由 |
| | 研究活動スタート支援 | 看護学生のインシデントに対する看護教員の かかわりの実態と関連要因 | 古村沙織 |

■ 研究分担者

| 研究種目 | 研究課題名 | 分担者名 |
|---------|---|------|
| 新学術領域研究 | 生体夾雑系におけるタンパク質不可逆阻害のための 有機化学の開拓と創薬展開 | 小野真弓 |
| 基盤研究B | 特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発 | 日高艶子 |
| 基盤研究B | 長期に渡る戦争による反復的Trauma体験が後年の心身に及ぼす 影響に関する調査 | 秦野環 |

| 研究種目 | 研究課題名 | 分担者名 |
|-------|--|-------|
| 基盤研究B | 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発 | 桃井雅子 |
| 基盤研究B | 子育て女性を対象とした生活習慣病予防健診の地域啓発プログラムの開発と社会実装研究 | 眞崎直子 |
| 基盤研究C | 看護学生の自己調整学習の特徴 -「自ら学ぶ力」を育成する方略の探索- | 鶴田明美 |
| 基盤研究C | 自発性を賦活させる熟練看護師の看護実践を支える暗黙知の解明 | 日高艶子 |
| 基盤研究C | 看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発 | 日高艶子 |
| 基盤研究C | 看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発 | 小浜さつき |
| 基盤研究C | 地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発 | 眞崎直子 |
| 基盤研究C | 労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連 QOL との関連 | 眞崎直子 |
| 基盤研究C | 新人訪問看護師が「ひとりで訪問できる」ために必要な看護実践能力の評価指標の作成 | 眞崎直子 |
| 基盤研究C | 総排泄腔遺残症患者の母子関係の特徴と家庭における性教育との関連 | 野口ゆかり |

■ 令和2年度助成金額

< 科学研究費助成事業（日本学術振興会） >

新規採択分 3件 / 助成金額 2,000,000円

継続分 10件 / 助成金額 4,100,000円

研究分担金 13件 / 助成金額 3,107,000円

※令和2年度直接経費配分額を表示

4. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

本学では、中期計画として、第4次5カ年計画（令和2年度～令和6年度）を定めています。

中期計画では、「教育の質向上」「学生支援策の充実」「入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進」「社会連携（地域貢献・国際交流）」「経営基盤・組織の強化」を5つの重点項目とし、5カ年計画に基づく、年度単位の事業計画の策定とその実績報告、更に実績報告に基づく次期年次計画の策定を行うことによりPDCAサイクルを意識した運営を行っています。

令和2年度における事業計画の進捗・達成状況について、代表的取組について以下に報告いたします。

「教育の質向上」に関しては、本学の特徴と社会動向を踏まえた教育課程の再編成、教学マネジメント体制・組織的教育の展開の強化による学修者本位の教育への転換を計画の一つとして定めています。

教育課程の再編成に関しては、令和4年度入学生からを対象とした3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）及びカリキュラムの検討を行いました。更に、カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の関連性を示した図）を作成し、今後の組織的教育の展開にも活用する予定です。

また、ICTを活用した新たな手法の導入による学生の主体的学びへの転換に関しても、中期計画の一つとして定めています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により教育方法の変更（遠隔授業と対面授業の併用）を余儀なくされましたが、遠隔授業に関するFDを開催するなど、コロナ禍においても教育の質向上を図るための取組を実施いたしました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業が主となりましたが、今後は、新型コロナ終息後も見据えたICT活用（遠隔授業の在り方を含む）について検討を継続してまいります。

「学生支援策の充実」に関しては、ひとりひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援を計画の一つとして定め、特に令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症が学生に様々な影響を及ぼす環境下、学生支援センター、チューター教員、事務職員等において、オンライン等も活用し、学修面・生活面・経済面など、各方面における支援を実施いたしました。

また、真に支援が必要とする学生への適切な支援も中期計画の一つとして定め、その一つの取組として、障害学生支援体制の検討を行い、学生支援センター内に「インクルーシブ教育支援部門」を新設することに至りました。

「入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進」では、学生募集に関しては、

オンラインを活用したオープンキャンパスの企画・実施、また、入試制度改革に関しては、過去の入試区分別の入学後成績、学籍異動状況等の分析を踏まえた入試選抜方法の検討を実施し、その方向性を決めました。

「社会連携（地域貢献、国際交流）」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に物理的な対外活動を伴う社会連携活動に関しては大幅な縮小、見直しが必要となりました。一方で、可能な措置（オンライン化等）により、一定の対応的活動は実施し、更にはコロナ禍における新たなニーズ（市保健所からの疫学調査への派遣、コミュニティセンターでの感染予防セミナー等）への対応、また、新たな価値観での活動展開として、オンラインを活用した海外姉妹大学との積極的な学生間交流の企画等に着手いたしました。

「経営基盤・組織の強化」においては、カトリック大学や看護大学の教職員として相応しい意識の醸成、経営環境の変化に対応するガバナンス機能の強化等を目標の一つとして定め、「回勅ラウダート・シ」をテーマとしたカトリック研修会、「新たな時代に求められる職員の役割」等をテーマとしたSD研修会を実施することで、教職員の意識向上に努めました。

また、健全な財政基盤の確立、キャンパス整備についても計画の一つとして決めましたが、令和2年度に関しては、新型コロナウイルス感染症対策（学生への遠隔授業環境支援費、学内感染症対策等）を優先した措置を行うこととし、上記に関しては、令和3年度以降の継続検討といたしました。

なお、上記は5カ年計画の進捗状況の一例となります。また具体的取組内容の一部については、「5. 令和2年度に実施した主な事業内容」においても記載しておりますのでご参照ください。

（第4次5カ年計画は本学ホームページ上に掲載しています）

5. 令和2年度に実施した主な事業内容

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年実施している学校行事や諸活動の大半を中止、もしくは実施形態を変更せざるを得ない1年となりました。

そのような中でも、オンラインを活用した講義や学校行事の実施、これまでの感染症対策の見直しなど、コロナ禍収束後を見据えた新たな取り組みを実施することができ、今後の時代の変化に柔軟に対応できる体制を構築できたものと考えております。

また、教職員・学生の一人一人が看護学校に属する一員として「コロナに感染しない、させない」という意識を持っており、徹底して感染対策を行うことで、1人の感染者も出さず、当年度を終えることができました。

以下に、「経営・管理」、「教育・研究」、「国際交流」及び「地域貢献」を枠組みとして主な事業項目の概要を示します。

① コロナ禍における主な取り組み

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、講義や実習の実施方法、学内組織、学内施設の運用方法や管理体制などを見直し、徹底して感染対策を行いました。その結果、教職員・学生から1人の感染者も出さず、当年度を終えることができました。

以下に、コロナ禍における聖マリア学院大学（以下、本学）の主な取り組みを記載いたします。

1) 感染拡大予防対策部会の設置

既存のリスク管理委員会の指示を遂行する部会として、看護教員を中心とした「感染拡大予防部会」を設置しました。

この部会は新型コロナウイルス感染拡大に特化した活動を行う組織で、迅速な情報収集、健康観察、消毒、学内施設の運用方法の具体策を決定するなど、学内の関係機関と連絡調整を取りながら、様々な活動を行っています。



健康観察の様子

2) 講義の実施方法

通常は教室にて対面で講義を行うところですが、教室は「密」になりやすい環境となるため、感染リスクを減らすべく、オンラインを活用した講義形態を構築いたしました。

まず、5月のゴールデンウィーク明けから全ての講義をオンラインで配信しました。オンライン会議システム「zoom」「Microsoft Teams」、eラーニングシステム「WebClass」の3つのサービスを使用し、教育の質を保証すべく、担当教員ごとに様々な工夫を凝らしながら講義を実施しました。

6月からはオンラインに加え、感染対策を徹底しながら対面での講義を併用するスタイルで講義を実施しました。

学生は決められた曜日に登校し、感染拡大予防部会の教員による健康観察を受けてから教室に向かいます。教室は1学年で2つに分けられており、間隔を取りながら指定されている座席に着席し、昼食も他人と会話をせずに自席で摂るなど、厳しいルールを学生一人一人が遵守しています。



オンライン講義の様子

3) 実習の実施方法

臨床実習はオンラインでの実施は不可能であるため、実習受入機関と協議の上、感染拡大が停滞している時期を中心に、通常通り実施いたしました。

対面講義時と同様、毎朝登校時に健康観察を行い、実習中も常に感染対策を徹底することはもちろんのこと、実習開始前の2週間はアルバイトを禁止するなど、臨床実習特有のルールも設けました。

4) 学内施設の運用方法

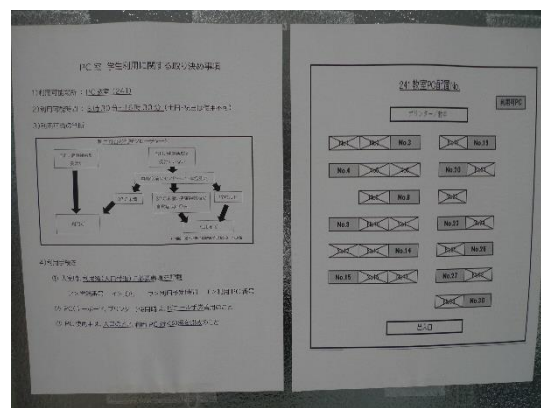
学内施設の利用にも制限をかけることとなりました。

パソコン教室は、使用できるパソコンの台数や位置を制限し、使用前の消毒ならびに入退室管理を徹底しました。

学生食堂は、テーブルに飛沫防止シートを取り付け、営業もテイクアウトのみとしました。



学生食堂



パソコン教室

5) 学校行事の実施

例年実施している学校行事も、中止、規模縮小、オンライン開催など、内容や状況に応じて対応しました。

入学式は緊急事態宣言発令直前の感染拡大期のため、学院祭は不特定多数の学外者の入構や「密」になりやすい環境となるため、それぞれ中止しました。

召命のつどいと合同クリスマスは、オンラインで開催しました。通常の状態と大きく変わりましたが、それぞれの行事の趣旨に沿って実施することができ、通常期と同様に行事の目的は達成できたものと考えております。

オープンキャンパスもすべてオンラインで開催しました。例年であれば、模擬講義や見学ツアーをはじめとした体験型プログラムを実施しておりましたが、今回はオンラインということで、キャンパス内の各地点を中継で結びながらのライブ配信、WEB上での1対1の個別相談などを実施しました。



WEBオープンキャンパスの様子



学位授与式の様子

6) 国家試験対策

例年の国家試験対策は、模擬試験や補講を中心に対面で実施しておりますが、これらも基本的にオンラインで実施しました。

補講をオンラインで実施したほか、専門業者による国家試験学習支援ツールの導入、模擬試験の自宅受検なども実施しました。

7) 学生へのサポート

コロナ禍において生活様式が大きく変わり、オンライン講義の増加により学生が登校できない日々が続いていることから、学生へのサポートとして以下の取り組みを実施しています。

■ 経済的支援

- ・ 遠隔授業環境支援費として全学生に一律50,000円給付
- ・ 高等教育修学給付金、学びの継続のための「学生支援緊急給付金」受給者へ補完的措置として1人につき45,000円給付
- ・ 学納金納付期限の猶予措置（延納・分納）
- ・ 寄付金を財源とした大学独自の給付型奨学金の新設

■ 学生支援・修学支援

- ・ 担当チューター教員による全学生への電話連絡及び継続フォロー（学修、メンタル、健康、生活等）
- ・ オンラインチューター交流会、定期的個別面談、リモート補講、個別学修支援
- ・ 学生支援センターによるオンライン相談窓口の設置

■ キャリア支援

- ・ リモートでの自己分析講座、面接対策講座等実施（履歴書の添削、面接練習、リモート採用試験対策など）

8) テレワークの試行的実施

公共交通機関で通勤している教職員が多く、通勤途上での感染リスクを軽減するため、テレワークを試行的に実施しました。

実施のきっかけは感染防止を目的としたものではありませんが、働き方改革の一環として教職員のライフスタイルに応じた多様な働き方を構築すべく、コロナ収束後も継続することを想定して実施いたしました。

新たに設置したテレワーク推進本部が主体となり、教職員全員が実際に在宅勤務を行いながら各々課題を洗い出してもらうことにより、正式運用に向けた制度設計ならびに実践へ繋げて参ります。

【例年実施している学校行事ならびに各種事業の本年度の実施状況】

| 学校行事・事業内容 | 実施状況 |
|-------------------------|--------------|
| 入学式 | 中止 |
| 新入生歓迎行事 | 中止 |
| 国家試験フェア | オンラインで実施 |
| 召命のつどい | オンラインで実施 |
| 学院祭 | 中止 |
| 合同クリスマス | オンラインで実施 |
| 入学試験 | 全て対面で実施 |
| 学位授与式・修了式 | 規模を縮小し、対面で実施 |
| 米国研修旅行 | 中止 |
| フランシスコ・ボランティアキャンプ | 中止 |
| フィールドスタディー | 中止 |
| 姉妹校からの実習生受入 | 中止 |
| JICA 青年研修事業 | 申請せず |
| ASEACCU | 中止 |
| まちなか保健室 ほっとステーションマリア | 全て中止 |
| 被災地へのボランティア派遣 | 中止 |
| 公開講座 | オンラインで実施 |

②図書館における活動

令和2年度の開館状況については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、利用を一部制限して開館いたしました。また、学生の自宅学修を支援するため、オンラインサービスを充実させました。

1) 短縮開館の実施

平日のみの開館とし、短縮開館を実施しました。また、感染状況に応じて、10:00～16:30、9:00～17:00、9:00～19:00 と開館時間を延長しました。

2) 入館制限の実施

原則学内者のみを入館可能とし、感染状況に応じて卒業生及び聖マリアグループ職員の入館を許可しました。

3) 施設の利用制限

飛沫感染を防止するため、グループ学修による座席利用を禁止しました。そのため、ラーニングコモンズや閲覧席の座席を指定して利用するなど施設の利用を一部制限することとなりました。

4) 感染対策

- ①入館時の対策：健康観察（検温）、手指消毒、マスク・手袋着用の確認を実施
- ②飛沫対策：カウンターにはアクリル板を設置し、パソコン等共用設備に対してはラップによる対策を実施
- ③換気：サーキュレーターによる換気を実施
- ④消毒：使用箇所は利用者が各自で消毒し、共用設備や書架に関しては定期的に消毒を実施

5) オンラインサービス

学生の自宅学修を支援するため、オンラインサービスを実施しました。

- ①オンライン予約による図書の貸出
- ②図書館所蔵文献及び貸出図書の郵送サービス
- ③文献検索データベースの学外利用

6) 教科書リユースの実施

新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困窮している学生を支援するため、教科書リユースを実施しました。申込者21名に対し、教科書126冊分(約40万円)の支援を行いました。また、卒業生や教職員から収集した参考書等は古本として販売し、売上金9,900円はカトリックセンターへ寄付しました。



感染症に関する図書コーナー



間隔を空けて座席が配置された館内

③「新カリキュラム」の検討

本学看護学部及び専攻科助産学専攻では現在、令和4年度以降の入学生を対象とした新たなカリキュラム編成を検討しています。

今回の改正においては、「学士力としての人間の成熟・看護実践者としての成熟を促すカリキュラム(学部)」「保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正への対応」「Society 5.0時代に向けたカリキュラム」などを主な視点としています。引き続き学内のワーキンググループにて検討し、正式決定いたします。

④Society 5.0に向けた本学の取り組み

Society5.0に向けた中長期的視点も踏まえた本学の教育及び運営の在り方についての方針を策定し教職員に示すことを目的に「Society5.0に関するアドバイザリーボード」を設置いたしました。

また、前述の令和4年度入学生からのカリキュラムへの反映、並びに文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」における認定に向けた検討を開始いたしました。

⑤公開講座の実施

平成20年度から例年開催している公開講座も13年目を迎えました。昨年度に引き続き「地域ファースト」を公開講座においても具現化することが目的ですが、コロナ禍での実施となりましたため「地域とともによりよく生きる with コロナ」とテーマを変え、オンライン（オンデマンド配信）で開催しました。

突然襲ってきた世界的な感染症である新型コロナウイルスは、誰もが罹患する可能性がある、身近に潜む脅威でもあります。

本年度の公開講座では、コロナ禍においてお互いに助け合いながら健康に過ごすにはどうしたらよいか、また、感染症の専門家による正しい知識を習得し、今後どのように対応すべきか、ご参加の皆様と考える機会としました。

令和2年度公開講座実施内容

第1回／「コロナ禍のソーシャルキャピタル（互助）推進の健康づくり」

講師：聖マリア学院大学 教授 眞崎直子

第2回／「新型コロナウイルス感染症等の最新情報」

講師：国立感染症研究所 感染症疫学センター

八幡裕一郎 氏

⑥久留米市雇用優良事業所表彰

本学院では以前より教職員の多様な働き方を推進し、学生の教育支援充実に取り組んでいるところですが、この度、特に女性教職員の活躍の点において、久留米市より「雇用優良事業所」として表彰を受けました。

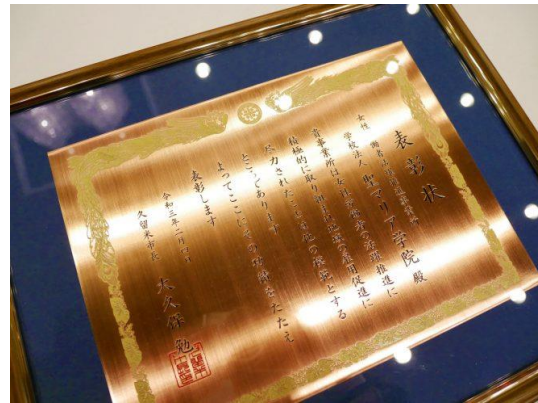
2月4日（木）に表彰式が行われ、久留米市長から井手三郎理事長へ表彰状が

授与されました。

本学院としましては、引き続き、教職員個々人が学生一人ひとりに寄り添った業務遂行が出来るよう、環境整備に努めて参ります。



表彰式の様子



表彰状

⑦国庫補助金の獲得状況

■私立大学等経常費補助金

補助金額 139,613,500 円

※授業料等減免費交付金 31,691,500 円 を含む

■私立学校情報機器整備費補助金

補助金額 1,476,000 円

6. 令和3年度入試結果

令和2年度実施／令和3年4月入学者

■聖マリア学院大学

<看護学部看護学科>

| 区 分 | 募集人員 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|-------------|------|------|------|------|------|
| 推 薦（系属校） | 若干名 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 推 薦（指定校） | 35名 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| 推 薦（公募制：前期） | | 39 | 39 | 32 | 28 |
| 推 薦（公募制：後期） | 5名 | 14 | 14 | 8 | 8 |
| 社会人 | 若干名 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 学士・短期大学士 | 若干名 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一 般 | 54名 | 145 | 142 | 98 | 36 |
| センター利用（前期） | 10名 | 34 | 13 | 6 | 1 |
| センター利用（後期） | 5名 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| 合 計 | 110名 | 272 | 247 | 182 | 110 |

※推薦（系属校）の募集人員には特待推薦奨学生1名を含む。

<専攻科助産学専攻>

| 区 分 | 募集人員 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 推 薦 | 7名 | 17 | 17 | 7 | 7 |
| 一 般 | 3名 | 16 | 14 | 3 | 3 |
| 合 計 | 10名 | 33 | 31 | 10 | 10 |

※推薦は本学卒5名、一般卒2名

※令和3年度より入学定員を15名から10名に変更

○聖マリア学院大学大学院

<看護学研究科>

| 区 分 | 募集人員 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 一 般（秋期） | 12名 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人（秋期） | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一 般（春期） | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人（春期） | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 合 計 | 12名 | 2 | 2 | 2 | 2 |

7. 卒業生の主な進路状況

○聖マリア学院大学
(令和3年3月卒業生)

| 区分 | 就職者数 | 主な進路先 |
|-------|------|----------------------------------|
| 県内病院 | 55 | 聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター、久留米大学病院 など |
| 県外病院 | 29 | 佐賀大学医学部附属病院、熊本大学病院、東京女子医科大学病院 など |
| 医療機関外 | 3 | 福岡県庁、西鉄人事サービス株式会社 |
| 進学 | 7 | 聖マリア学院大学専攻科助産学専攻、アカデミー看護専門学校助産師科 |

○聖マリア学院大学専攻科助産学専攻
(令和3年3月修了生)

| 区分 | 就職者数 | 主な進路先 |
|------|------|--------------------------------|
| 県内病院 | 7 | 聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター、九州大学病院 など |
| 県外病院 | 3 | 慈恵病院、徳山中央病院、鈴木病院 |

○聖マリア学院大学大学院
(令和3年3月修了生)

| 区分 | 就職者数 | 主な進路先 |
|----|------|----------------------|
| — | — | 修了生全員が社会人学生のため、該当者なし |

※上記はいずれも、新卒者のみの数値である。
(社会人学生は除く)

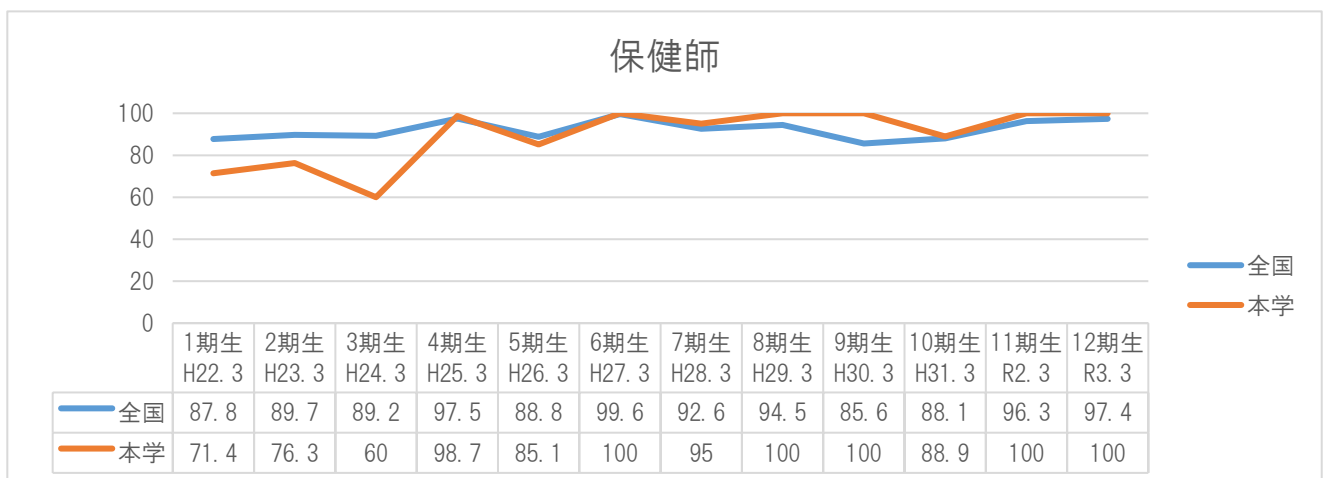
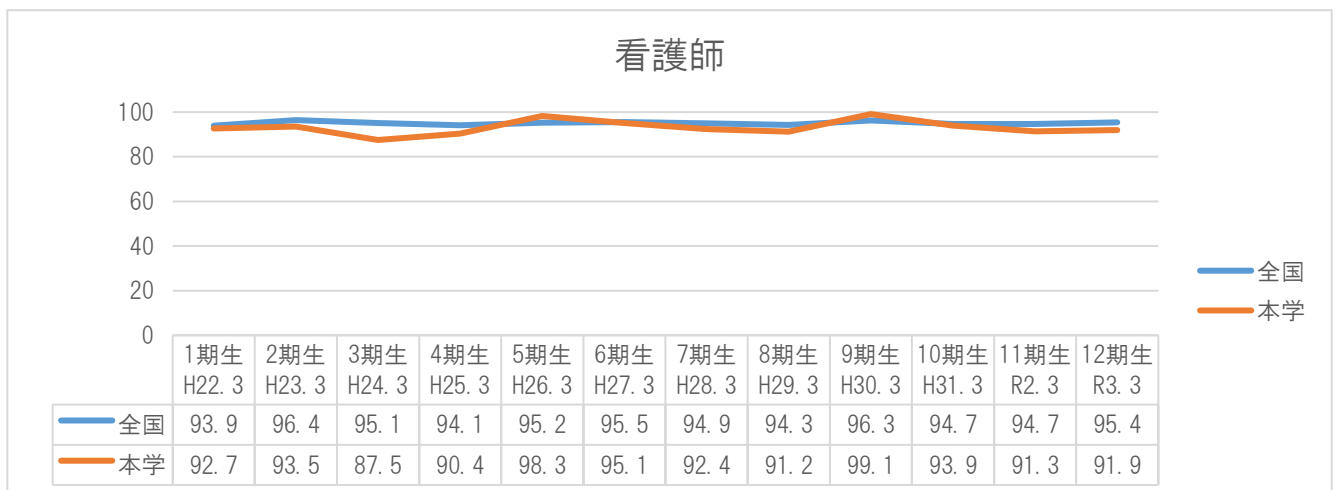
8. 国家試験の合格状況

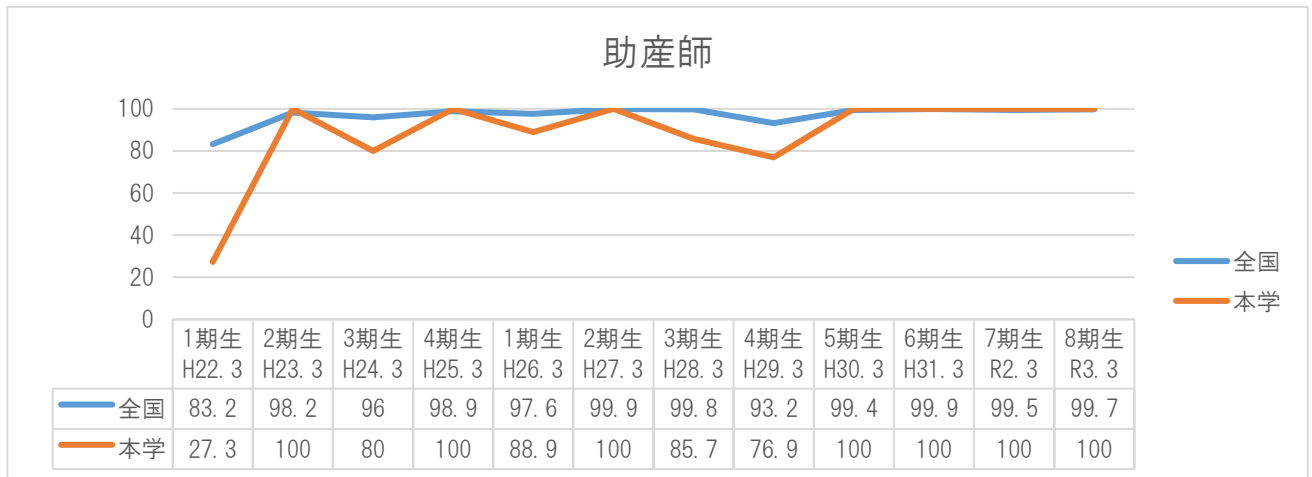
令和3年2月実施

| | 本学における結果(名) | | 合格率(%) | |
|-----|-------------|------|--------|------|
| | 合格者数 | 受験者数 | 本学 | 全国 |
| 看護師 | 91 | 99 | 91.9 | 95.4 |
| 保健師 | 18 | 18 | 100.0 | 97.4 |
| 助産師 | 14 | 14 | 100.0 | 99.7 |

※上記はいずれも新卒者のみの数値である。

～合格率の推移～





※上記はいずれも新卒者のみの数値である。

※助産師国家試験は、平成25年3月卒業者以前は看護学部の結果、
平成26年3月修了者以降は専攻科の結果である。

9. 学年暦

| | |
|---------------------|---------------------|
| 4月 1日 (水) | 学年はじめ |
| 4月 6日 (月) | 令和2年度入学式 |
| 4月 7日 (火) ~ 10日 (金) | 新年度オリエンテーション |
| 4月11日 (土) | 健康診断 |
| 4月13日 (月) | 前期開講 |
| 4月17日 (金) | 新入生歓迎行事 |
| 7月中旬 | 前期単位認定試験 (看護学部3年) |
| 7月下旬 | 前期単位認定試験 (看護学部1・2年) |
| 8月 1日 (土) | 夏期休暇開始 |
| 8月上旬 | 国家試験フェア (看護学部3年) |
| 9月15日 (火) | 夏期休暇終了 |
| 10月 1日 (木) | 後期開講 |
| 10月10日 (土) | 召命のつどい (看護学部1年) |
| 10月中旬 | やすらぎのつどい (看護学部4年) |
| 11月上旬 | 聖マリア合同慰霊祭 |
| 11月14日 (土) | 学院祭 |
| 12月 8日 (火) | 創立記念日 (無原罪の聖マリアの祭日) |
| 12月下旬 | 第71回聖マリア医学会研究会 |
| 12月25日 (金) | 合同クリスマス |
| 12月26日 (土) | 冬期休暇開始 |
| 1月10日 (日) | 冬期休暇終了 |
| 1月下旬~2月上旬 | 後期単位認定試験 (看護学部2年) |
| 2月上旬 | 後期単位認定試験 (看護学部1年) |
| 3月 6日 (土) | 令和2年度学位授与式・修了式 |
| 3月中旬 | 米国研修旅行 |

※上記は当初の予定であり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止したもの、規模縮小やオンライン開催など、実施形態を変更したものがあります。詳細は「5. 令和2年度に実施した主な事業内容」をご覧ください。

Ⅲ. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準（文部科学省令）により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

企業の財政構造が、「モノ」を生産・販売することにより投資した資本を回収するとともに利潤を獲得し、獲得した利潤により新たな設備投資や既存の設備の改修が可能となる「生産経済体」であるのに対し、学校法人は、学生が入学することで学納金により収入を確保できる一方、支出が増加した場合、それに見合った収入の増加を図ることが難しい「消費経済体」です。

企業会計の目的が営利目的の事業活動の成果と財政状態を利害関係者に開示するところにあるのに対し、学校法人会計は財政面から学校経営における教育研究活動の健全性を測定し、開示することを目的としています。

| | 学校法人会計 | 企業会計 |
|----------------|--|---|
| 事業の目的 | 教育研究活動 | 利潤獲得のための経済活動 |
| 財務諸表 (計算書類) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金収支計算書 活動区分資金収支計算書 ・ 事業活動収支計算書 ・ 貸借対照表 | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャッシュフロー計算書 ・ 損益計算書 ・ 貸借対照表 |

以下に、各計算書の概要を記し、令和2(2020)年度における本法人決算につきご報告します。

2. 「資金収支計算書」の概要

当該会計年度の諸活動に対する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

また、内訳表と併せ会計基準改正により新たに「活動区分資金収支計算書」を添付することになりましたが、これは企業会計でいえば「キャッシュ・フロー計算書」に相当するものになります。

主な収入（科目説明）

| | | |
|-------------------------------|---|-----------|
| 学生納付金収入（学生からの入学金・授業料等収入） | ： | 762,643千円 |
| 補助金収入（国等からの補助金） | ： | 141,090千円 |
| 前受金収入（翌年度に入学予定の学生からの入学金、授業料等） | ： | 124,545千円 |

収入の部合計 **： 3,134,635千円**

主な支出（科目説明）

| | | |
|---|---|-----------|
| 人件費支出（教職員に支払われる給与・賞与等） | ： | 539,249千円 |
| 教育研究経費支出（学生の学習支援、課外活動費、教育研究活動費等） | ： | 209,792千円 |
| 管理経費支出（法人運営に係る費用、学生募集活動費用等） | ： | 53,223千円 |
| 設備関係支出（教育研究用の機器備品、管理用の機器備品、図書等を 取得するための費用） | ： | 7,293千円 |
| 資産運用支出（将来を見据え資金を積立・運用するための支出等） | ： | 230,400千円 |

支出の部合計 **： 3,134,635千円**

資金収支計算書

(単位；円)

| 資金収入の部 | | 資金支出の部 | |
|-------------|---------------|-----------|---------------|
| 科 目 | 02 年度決算額 | 科 目 | 02 年度決算額 |
| 学生納付金収入 | 762,643,300 | 人件費支出 | 539,249,258 |
| 手数料収入 | 10,843,275 | 教育研究経費支出 | 209,791,903 |
| 寄付金収入 | 49,307,000 | 管理経費支出 | 53,222,941 |
| 補助金収入 | 141,089,500 | 施設関係支出 | 0 |
| 資産売却収入 | 0 | 設備関係支出 | 7,293,181 |
| 付随事業・収益事業収入 | 5,013,000 | 資産運用支出 | 230,400,000 |
| 受取利息・配当金収入 | 5,554,592 | その他の支出 | 32,876,978 |
| 雑収入 | 10,653,186 | | |
| 前受金収入 | 124,545,000 | | |
| その他の収入 | 65,942,629 | [予備費] | ----- |
| 資金収入調整勘定 | △ 158,103,839 | 資金支出調整勘定 | △ 32,349,618 |
| 前年度繰越支払資金 | 2,117,147,773 | 翌年度繰越支払資金 | 2,094,150,773 |
| 収入合計 | 3,134,635,416 | 支出合計 | 3,134,635,416 |

3. 「事業活動収支計算書」の概要

当該会計年度の活動に対する事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、固定資産の経過的価値の減少（減価償却額）や将来的な負債を考慮した計算書で、学校法人の財政的な経営状況を表すものです。企業会計の「損益計算書（P/L）」に相当します。

主な収入（科目説明）

| | | | |
|--------|--|---|----------|
| 寄付金 | （学校法人への寄付による収入・事業活動収入の部には現物による寄付も含まれる） | ： | 49,307千円 |
| 付随事業収入 | （学生寮に係る寮費納付金の収入や受託事業の収入） | ： | 5,013千円 |

事業活動収入の部合計 **： 988,309千円**

主な支出（科目説明）

| | | | |
|--------|----------------------------|---|-----------|
| 減価償却費 | （既存の建物・土地・備品等の固定資産に係る償却費用） | ： | 140,893千円 |
| 資産処分差額 | （保有資産の除却に係る期末簿価を計上） | ： | 213千円 |

事業活動支出の部合計 **： 950,016千円**

基本金組入前当年度収支差額 **： 38,293千円**

基本金組入額合計 **： △ 9,530千円**

当年度収支差額 **： 28,763千円**

事業活動収支計算書

(単位；円)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---------|---------------|---------------|----------------|
| 科 目 | 2 年度決算額 | 科 目 | 2 年度決算額 |
| 教育活動収入 | 978, 676, 411 | 教育活動支出 | 949, 803, 807 |
| 教育活動外収入 | 5, 554, 592 | 教育活動外支出 | 0 |
| 特別収入 | 4, 078, 478 | 特別支出 | 212, 527 |
| | | [予備費] | 0 |
| 事業活動収入 | 988, 309, 481 | 事業活動支出 | 950, 016, 334 |
| | | 基本金組入前当年度収支差額 | 38, 293, 147 |
| | | 基本金組入額合計 | △9, 530, 068 |
| | | 当年度収支差額 | 28, 763, 079 |
| | | 前年度繰越収支差額 | △312, 078, 466 |
| | | 翌年度繰越収支差額 | △283, 315, 387 |

4. 「貸借対照表」の概要

当該会計年度末の財務状況（運用形態と調達源泉）を明らかにし、財政状態の健全性を表すものです。

企業会計でいえば「貸借対照表（B/S）」に相当します。

| | | |
|----------------------------|---|--------------|
| 固定資産（校地、校舎等建物、及び備品、図書等） | : | 4,477,106 千円 |
| 流動資産（現金及び預貯金等） | : | 2,101,244 千円 |
| 固定負債（退職給与引当金） | : | 232,585 千円 |
| 流動負債（未払金、前受金等） | : | 184,917 千円 |
| 基本金の部合計（財政的な基盤を示す額、将来への資金） | : | 6,444,163 千円 |
| 繰越収支差額（資産から負債と基本金を差引いた額） | : | △283,315 千円 |

貸借対照表

令和3年3月31日 現在

(単位；円)

| 資産の部 | | | |
|--------|---------------|---------------|-------------|
| 科 目 | 本年度末 | 前年度末 | 増 減 |
| 固定資産 | 4,477,105,878 | 4,386,112,337 | 90,993,541 |
| 流動資産 | 2,101,244,130 | 2,146,267,567 | △45,023,437 |
| 資産の部合計 | 6,578,350,008 | 6,532,379,904 | 45,970,104 |

| 負債の部 | | | |
|--------|-------------|-------------|-----------|
| 科 目 | 本年度末 | 前年度末 | 増 減 |
| 固定負債 | 232,584,772 | 225,937,808 | 6,646,964 |
| 流動負債 | 184,917,453 | 183,887,460 | 1,029,993 |
| 負債の部合計 | 417,502,225 | 409,825,268 | 7,676,957 |

| 純資産の部 | | | |
|-------------|---------------|---------------|------------|
| 科 目 | 本年度末 | 前年度末 | 増 減 |
| 第1号基本金 | 6,130,963,170 | 6,121,433,102 | 9,530,068 |
| 第2号基本金 | 140,000,000 | 140,000,000 | 0 |
| 第3号基本金 | 101,200,000 | 101,200,000 | 0 |
| 第4号基本金 | 72,000,000 | 72,000,000 | 0 |
| 繰越収支差額 | △283,315,387 | △312,078,466 | 28,763,079 |
| 純資産の部合計 | 6,160,847,783 | 6,122,554,636 | 38,293,147 |
| 負債及び純資産の部合計 | 6,578,350,008 | 6,532,379,904 | 45,970,104 |

5. 有価証券の時価情報

(単位：円)

| 種 類 | 当年度(令和3年3月31日) | | |
|------------------------|----------------|----------------|--------------|
| | 貸借対照表計上額 | 時 価 | 差 額 |
| 時価が貸借対照表 計上額を超えるもの | 300,000,000 | 306,168,398 | 6,168,398 |
| (うち満期保有目的の債券) | (200,000,000) | (201,890,000) | (1,890,000) |
| 時価が貸借対照表 計上額を超えないもの | 101,200,000 | 73,640,000 | △27,560,000 |
| (うち満期保有目的の金銭信託) | (0) | (0) | (0) |
| 合 計 | 401,200,000 | 379,808,398 | △21,391,602 |
| (うち満期保有目的の債券・金銭信託) | (200,000,000) | (201,890,000) | (1,890,000) |
| 時価のない有価証券等 | — | | |
| 有価証券 合計 | 401,200,000 | | |

6. 主な施設設備の整備状況

| 会計区分 | 内容 | 金額 |
|-----------|-------------------------------|-----------|
| 教育研究用機器備品 | 携帯型電子黒板一式、Ai 体温検知カメラ 他【 33 点】 | 3,982 千円 |
| 管理用機器備品 | Ai 体温検知カメラ、業務用オープン他 【 4 点】 | 819 千円 |
| 図 書 | 研究用、図書館用、製本雑誌 【1,481 冊】 | 2, 053 千円 |
| ソフトウェア | 採点用ソフト 【 1 点】 | 438 千円 |

7. 主な事業計画の履行状況

| 事業計画内容 | 予算措置(千円) | 達成度状況 |
|----------------------------|----------|-------|
| 建学の精神の具現化への諸活動<学院長経費> | 1,000 | ◎ |
| 「退職給与引当特定資産」の新設 | 220,000 | ◎ |
| 学長のリーダーシップによる大学改革の推進<学長経費> | 8,000 | ○ |
| 通信環境整備等による学修支援の実施 | 23,000 | ◎ |
| 「緊急学生支援金」制度の時限措置 | 4,815 | ◎ |
| 包括的キャンパス整備 | 4,000 | ◎ |
| 重層的な学修支援活動の推進 | 3,000 | ◎ |
| 地域社会への多角的な情報発信 | 2,000 | ○ |
| 産学官連携などによる地域創生関連 | 1,000 | △ |
| 青少年育成および国際保健医療協力への支援活動 | 1,400 | △ |
| 被災地支援に係る諸活動の継続 | 1,200 | △ |
| 大学院生教育研究助成金 | 1,500 | △ |
| 実習体制の充実、強化 | 2,000 | ◎ |

達成度状況 …… 予算執行 (95%以上) / ◎

予算概ね執行(80%以上) / ○

執行未了など(80%未満) / △

※本年度はコロナ禍により当初計画の未実施や大幅な変更などを余儀なくされたもの

8. 大科目の経過年度比較表 —平成28年度～令和2年度—

資金収支計算書

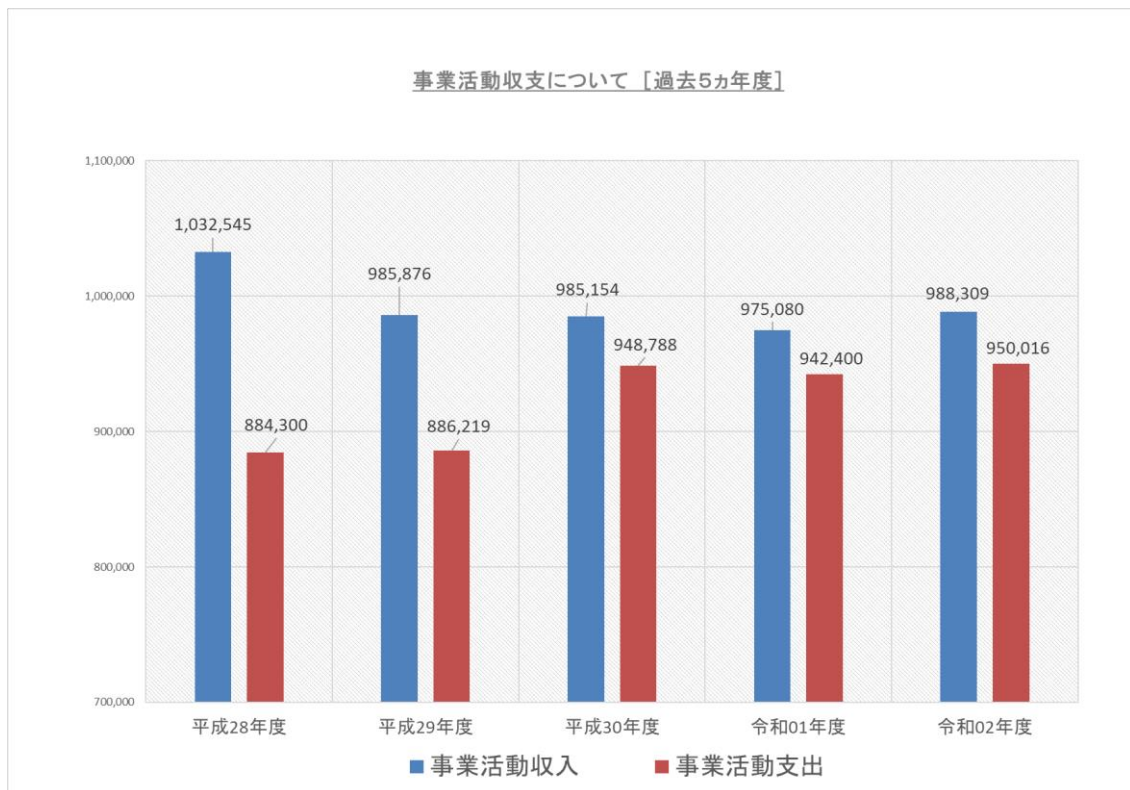
(単位：千円)

| 収入の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 学生納付金収入 | 798,911 | 785,139 | 784,380 | 769,730 | 762,643 |
| 手数料収入 | 11,900 | 11,097 | 11,500 | 10,712 | 10,843 |
| 寄付金収入 | 30,200 | 33,395 | 31,230 | 39,100 | 49,307 |
| 補助金収入 | 113,768 | 96,010 | 120,563 | 112,928 | 141,089 |
| 資産売却収入 | 0 | 0 | 100,000 | 0 | 0 |
| 付随事業・収益事業収入 | 30,366 | 21,557 | 8,052 | 7,404 | 5,013 |
| 受取利息・配当金収入 | 6,437 | 4,554 | 3,939 | 5,032 | 5,555 |
| 雑収入 | 35,336 | 33,072 | 22,730 | 26,182 | 10,653 |
| 前受金収入 | 136,636 | 143,461 | 141,739 | 137,577 | 124,545 |
| その他の収入 | 245,393 | 431,908 | 22,351 | 33,369 | 65,943 |
| 資金収入調整勘定 | △171,897 | △158,224 | △163,739 | △176,978 | △158,104 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,588,271 | 1,903,697 | 2,057,809 | 2,181,767 | 2,117,148 |
| 収入の部合計 | 3,025,322 | 3,305,666 | 3,140,555 | 3,146,823 | 3,134,635 |

| 支出の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 人件費支出 | 529,788 | 520,720 | 547,531 | 566,331 | 539,249 |
| 教育研究経費支出 | 179,028 | 184,247 | 172,461 | 169,462 | 209,792 |
| 管理経費支出 | 68,564 | 65,855 | 69,525 | 67,809 | 53,223 |
| 借入金等利息支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 借入金等返済支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 施設関係支出 | 211,059 | 408,358 | 0 | 32,319 | 0 |
| 設備関係支出 | 8,679 | 54,687 | 35,162 | 63,526 | 7,293 |
| 資産運用支出 | 122,100 | 25,200 | 128,000 | 128,800 | 230,400 |
| その他の支出 | 31,609 | 29,203 | 40,413 | 34,305 | 32,877 |
| 予備費 | — | — | — | — | — |
| 資金支出調整勘定 | △29,203 | △40,413 | △34,304 | △32,877 | △32,350 |
| 翌年度繰越支払資金 | 1,903,697 | 2,057,809 | 2,181,767 | 2,117,148 | 2,094,151 |
| 支出の部合計 | 3,025,322 | 3,305,666 | 3,140,555 | 3,146,823 | 3,134,635 |

事業活動収支計算書

| | | (単位：千円) | | | | | |
|---------------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|
| | | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 | |
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 科 目 | | | | | |
| | | 学生納付金 | 798,912 | 785,139 | 784,380 | 769,730 | 762,643 |
| | | 手数料 | 11,900 | 11,097 | 11,500 | 10,712 | 10,843 |
| | | 寄付金 | 30,200 | 33,395 | 31,230 | 39,100 | 49,307 |
| | | 経常費等補助金 | 113,768 | 96,010 | 120,563 | 99,012 | 139,614 |
| | | 付随事業収入 | 30,366 | 21,557 | 8,052 | 7,404 | 5,013 |
| | | 雑収入 | 39,999 | 33,072 | 23,492 | 27,159 | 11,256 |
| | 教育活動収入計 | 1,025,145 | 980,270 | 979,217 | 953,117 | 978,676 | |
| | 事業活動支出の部 | 科 目 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
| | | 人件費 | 535,891 | 521,303 | 578,206 | 572,158 | 545,896 |
| | | 教育研究経費 | 262,073 | 278,834 | 281,431 | 280,758 | 329,551 |
| | | 管理経費 | 85,573 | 85,228 | 88,755 | 87,450 | 74,357 |
| | | 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 教育活動支出計 | 883,537 | 885,365 | 948,392 | 940,366 | 949,804 |
| 教育活動収支差額 | | 141,608 | 94,905 | 30,825 | 12,751 | 28,872 | |
| (単位：千円) | | | | | | | |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 科 目 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
| | | 受取利息・配当金 | 6,437 | 4,554 | 3,939 | 5,032 | 5,555 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 教育活動外収入計 | 6,437 | 4,554 | 3,939 | 5,032 | 5,555 | |
| | 事業活動支出の部 | 科 目 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
| | | 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 教育活動外支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 教育活動外収支差額 | 6,437 | 4,554 | 3,939 | 5,032 | 5,555 | |
| | 経常収支差額 | 148,045 | 99,459 | 34,764 | 17,783 | 34,427 | |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 科 目 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
| | | 資産売却差額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | その他の特別収入 | 963 | 1,052 | 1,998 | 16,931 | 4,078 |
| | 特別収入計 | 963 | 1,052 | 1,998 | 16,931 | 4,078 | |
| | 事業活動支出の部 | 科 目 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
| | | 資産処分差額 | 763 | 854 | 396 | 2,034 | 212 |
| | | その他の特別支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 特別支出計 | 763 | 854 | 396 | 2,034 | 212 |
| | 特別収支差額 | 200 | 198 | 1,602 | 14,897 | 3,866 | |
| | [予備費] | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 148,245 | 99,657 | 36,366 | 32,680 | 38,293 | | |
| 基本金組入額合計 | △ 42,217 | △ 82,745 | △ 57,520 | △ 115,207 | △ 9,530 | | |
| 当年度収支差額 | 106,028 | 16,912 | △ 21,154 | △ 82,527 | 28,763 | | |
| 前年度繰越収支差額 | △ 331,339 | △ 225,310 | △ 225,311 | △ 229,552 | △ 312,078 | | |
| 基本金取崩額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 225,311 | △ 208,398 | △ 246,465 | △ 312,079 | △ 283,315 | | |
| (参考) | | | | | | | |
| 事業活動収入計 | | 1,032,545 | 985,876 | 985,154 | 975,080 | 988,309 | |
| 事業活動支出計 | | 884,300 | 886,219 | 948,788 | 942,400 | 950,016 | |



※単位：千円



※単位：千円

貸借対照表

(単位；千円)

| 資産の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 固定資産 | 4,393,936 | 4,266,319 | 4,298,445 | 4,386,112 | 4,477,106 |
| 流動資産 | 1,925,163 | 2,168,840 | 2,193,703 | 2,146,268 | 2,101,244 |
| 資産の部合計 | 6,319,099 | 6,435,159 | 6,492,148 | 6,532,380 | 6,578,350 |

| 負債の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 固定負債 | 188,853 | 189,436 | 220,111 | 225,938 | 232,585 |
| 流動負債 | 176,395 | 192,215 | 182,162 | 183,887 | 184,917 |
| 負債の部合計 | 365,249 | 381,651 | 402,273 | 409,825 | 417,502 |

| 純資産の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 基本金 | 6,179,161 | 6,261,906 | 6,319,426 | 6,434,633 | 6,444,163 |
| 第1号基本金 | 5,525,961 | 5,988,706 | 6,026,226 | 6,121,433 | 6,130,963 |
| 第2号基本金 | 480,000 | 100,000 | 120,000 | 140,000 | 140,000 |
| 第3号基本金 | 101,200 | 101,200 | 101,200 | 101,200 | 101,200 |
| 第4号基本金 | 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 |
| 繰越収支差額 | △225,310 | △208,398 | △229,552 | △312,078 | △283,315 |
| 翌年度繰越収支差額 | △225,310 | △208,398 | △229,552 | △312,078 | △283,315 |
| 純資産の部合計 | 5,953,851 | 6,053,508 | 6,089,874 | 6,122,555 | 6,160,848 |
| 負債及び純資産の部合計 | 6,319,099 | 6,435,159 | 6,492,148 | 6,532,380 | 6,578,350 |

9. 主な財務比率の経過年度比較表

| 比率 | 算式 (×100) | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和01年度 | 令和02年度 |
|-----------------|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人件費比率 | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$ | 51.9% | 52.9% | 58.8% | 59.7% | 55.5% |
| ★ | | | | | | |
| 教育研究費比率 | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$ | 25.4% | 28.3% | 28.6% | 29.3% | 33.5% |
| ☆ | | | | | | |
| 管理経費比率 | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$ | 8.3% | 8.7% | 9.0% | 9.1% | 7.6% |
| ★ | | | | | | |
| 事業活動収支差額比率 | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$ | 14.4% | 10.1% | 3.7% | 3.4% | 3.9% |
| ☆ | | | | | | |
| 基本金組入後収支比率 | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$ | 89.3% | 98.1% | 102.3% | 109.6% | 97.1% |
| ★ | | | | | | |
| 学生納付金比率 | $\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$ | 77.4% | 79.7% | 79.8% | 80.3% | 77.5% |
| *** | | | | | | |
| 寄付金比率 | $\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$ | 2.9% | 3.4% | 3.2% | 4.0% | 5.0% |
| ☆ | | | | | | |
| 補助金比率 | $\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$ | 11.0% | 9.7% | 12.2% | 10.2% | 14.1% |
| ☆ | | | | | | |
| 基本金組入率 | $\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$ | 4.1% | 8.4% | 5.8% | 11.8% | 1.0% |
| ☆ | | | | | | |
| ☆ ; 高い値が良い | | | | | | |
| ★ ; 低い値が良い | | | | | | |
| *** ; どちらともいえない | | | | | | |

10. 令和2年度決算総評

本年度における事業活動収入計は、988,309,481円となりました。収入の内訳としては、入学金、授業料等の「学生納付金収入」が762,643,300円と約77%を占め、ついで「補助金収入」が139,613,500円と約14%となっております。

支出につきましては、「人件費」が545,896,222円、「教育研究経費」329,550,733円及び「管理経費」74,356,852円などを主なものとして、事業活動支出計が、950,016,334円となっております。

その結果、「基本金組入前当年度収支差額」が38,293,147円となり、令和2年度単年度として収入超過（黒字）となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響から、学会等の出張が激減したことにより「旅費交通費」が大幅に支出減となった一方、衛生資材等の感染予防対策に係る必要な経費については際限なく支出するなど、過年度に例を見ない特異な収支構造となっております。

また、コロナ禍のよって急遽遠隔授業を実施することになったことを受け、通信環境の整備等に係る学修支援方策として全学生に対し一律50,000円を支給、約23,000,000円を「奨学費」として計上いたしました。

なお、今年度より実施された国の修学支援新制度によって「学生納付金収入」が減収、その同額が補助金交付による「補助金収入」増収となっており、今後ともこのような資金の流れとなります。

コロナ禍の収束も見通せない中、予期せぬ支出も出てくるかもしれませんが、安定的な収支バランスを確保しながら、堅実な財政計画とその適正な執行管理により、財政基盤の健全化に施策的に取り組んでまいります。

学校法人聖マリア学院

聖マリア学院大学 看護学部／専攻科助産学専攻
聖マリア学院大学大学院 看護学研究科

〒830-8558

福岡県久留米市津福本町4-2-2番地

TEL 0942-35-7271 (代表)

FAX 0942-34-9125

<http://www.st-mary.ac.jp/>